

## あおぞらだより

第160号(発行/平成28年9月)

納涼祭 ・ 夏祭り

### 差別

江戸川病院院長 新村ヨシオ

差別は不当に分け隔てすることである。差別することは対象者に屈辱感を抱かせることであり、道徳的にも許されることではない。しかし、世の中は渾沌とし、いつの間にか差別化に抵抗感がなくなっているように感じられる。何事にも優劣をつけたがり、どの業界を觀ても、他社との比較を前面に出して優性を誇示している。とくに製造業やサービス業などは顕著である。物を売るには品質の良いもの、便利なもの、所有欲を満たす



ものを製作するのは当然としても、他社との差別を明確にしたがる。サービス業にしてもサービスの質や接遇の改善や品揃え、そして価格などで顧客満足度を上げる努力をすることで比較する。商売においては自社製品こそと宣伝や営業しないと製品は売れない。それが、行き過ぎると、競争相手の製品と比べることになり、差別化して人の関心を寄せようとする。消費者心理としては、高価であっても一流品で物品を揃えたい欲望に駆られるので、差別が明確で優位性が認識できた物を購入しようと決断する。差別されて小売店がなくなり、町は火が消え、地域が消滅している。日本文化も古いと西洋化した。

差別の心理は、幼児期から日常生活の中で芽生えていく。成長とともに観察力が身に付くと、子ども心に優劣を認識していく。腕力の強い者や個性に特徴のある者が頭角を現してくると、劣性に回る子どもは強い者に巻かれていく。運動能力や学業に長けてく

れば、注目される立場になるし、周囲の者に羨ましがられる。遊びの達人になれば仲間が集まってくる。目立つ側に立てれば差別される側に立たなくてすむ。学童期になるとさらに能力に差がつき、優劣が明白になってくる。子どもは理想化するので自身の夢は大きく、スポーツ選手や芸能人そして芸術家などを目標にする。学習塾や習い事そしてクラブ活動を通して能力をつけていく。しかし、そのような機会を得られなかったり興味を失っていくと格差がついていく。過酷な現実であるが子どもの時から競争が始まっている。思春期になって立場が逆転することもあるが、幼児期より英才教育を受け、能力が芽生えたら優位に立てる。しかし、優等生は少なく、殆んどの方は現実を直視し、差を甘受し自身の道を探していく。でも子ども達の中には敗北感と挫折感で自己に差別感が固定してしまうことがある。この時に大人が介入しないと卑屈になったり、劣等感が強くなってしまう。

差別に敏感にならざるを得ないのは、社会構造に問題がある。経済的にも格差が大きくなり、勝ち組は誰でも羨むプール付きの邸宅に住み、豪華な家具に囲まれて贅沢な食事や旅行をしている。極めつけはファーストクラスで飛んで、スイートルームに泊まり、リムジンで観光できるのである。一方では、働いても生活で精一杯でレジャーを考える余裕さえない人達もいる。高額所得者は一握りであるのは理解できても、なぜこれだけの格差が生じるのか。ひとりの力ではとても富を得られないと思える一方で、天才的人物の創造力や発案、そして牽引力が組織を造り上げ、更に人材も集まり業績を押し上げた人が頂点に立てると理解はできる。そんなエリートが夢の生活を得られ、一般人は身の丈に合った生活を強いられてしまう。挫折した人は卑屈にもなるし劣等感にもなり、歯止めがきかなくなれば自己否定となる。

差別で恐ろしいのは人間や人種に向けた時である。宗教でさえ、対立すると殺し合うことも起きている。民主主義の指導的国家であるアメリカの大統領選の運動演説の中でも、人種や宗教の排斥が起こっている。ヨーロッパの国々でも白人優位の右傾化や極右政党の台頭が危惧されている。日本でもヘイトスピーチやデモが堂々で行われている。いつしか日本国民は差別することに抵抗感はなくなっている。今回の神奈川県で障害者施設で大量殺人が起きたが、犯人は優生主義者で差別感が強い人と報道されている。競争社会や学歴社会と言われ捏造してまで自社の優位性を際立たせる現社会の経済優先のゆがみは露呈してきたのであろう。犯人自身も競争社会に負けて挫折し、自己を抹殺すべきと悩んでいた時に優生主義に触れ、自己を英雄視して自身より弱者に攻撃を向け、行動化したのではないかと推察している。日本から世界を震撼させる残虐なニュースが発信されるほど、日本の社会病理には問題があると認識すべきである。人間尊重の社会にならないと差別は無くならないし事件も減らないであろう。亡くなった方のご冥福をお祈りしたい。

# 納涼祭

平成28年8月24日

8月の納涼祭はみんなでかき氷を作ってたべました。



氷を削って



アイスに乗せて  
好きなシロップをかけて



完成！



みなさんの感想

- おいしかった。また食べたい。
- 子供の時に食べたのを思い出した。
- 大判焼きも食べたい。
- アイスのおかわりが欲しかった。
- おいしい。涼しくなっていていい。



夏

院長による開会のあいさつ

平成 28 年 8 月 26 日 (1・2・3 病棟)  
8 月 27 日 (桃源)



デイケアメンバーによるよさこい踊り



「魚つり」と題して雑貨を釣り上げました。

みなさん一生懸命でした



# 祭り

祭

祭

祭

祭

祭

祭



デイケアメンバーによる神輿かつぎ



患者様も太鼓を叩きました



みんなで輪になって「東京音頭」や「炭坑節」を踊りました♪

